

泉崎駅周辺地区 バリアフリー基本構想

～「村」で初となる基本構想づくり～

- 1 泉崎村の概要
- 2 泉崎駅周辺の現状とまちづくりの取組
- 3 泉崎駅周辺地区バリアフリー基本構想の策定
- 4 策定にあたって工夫・苦労したこと
- 5 今後の取り組み予定



1

泉崎村の概要



■面積

35.43km²

■人口

5,951人（令和6年4月1日現在）

■公共交通

- ・JR東北本線1駅→泉崎駅（無人駅、1日平均乗車人数：約350人）
- ・村民巡回バス（ふれあい号）3路線

■村の特徴

- ・泉崎駅から東京駅まで最短101分、仙台駅まで最短67分の通勤圏内であり、交通アクセスは良好。
- ・この好立地を活用すべく、泉崎駅の利便性を向上させるため長年にわたり、泉崎駅東口整備を計画してきた。

2

泉崎駅周辺の現状と まちづくりの取組

■泉崎駅及び周辺の状況



2

泉崎駅周辺の現状と まちづくりの取組

■泉崎駅及び泉崎図書館（泉崎駅西側）



2

泉崎駅周辺の現状と まちづくりの取組

■泉崎駅東側



2

泉崎駅周辺の現状と まちづくりの取組

■天王台ニュータウン（泉崎駅北東側）



2

泉崎駅周辺の現状と まちづくりの取組

■泉崎村役場

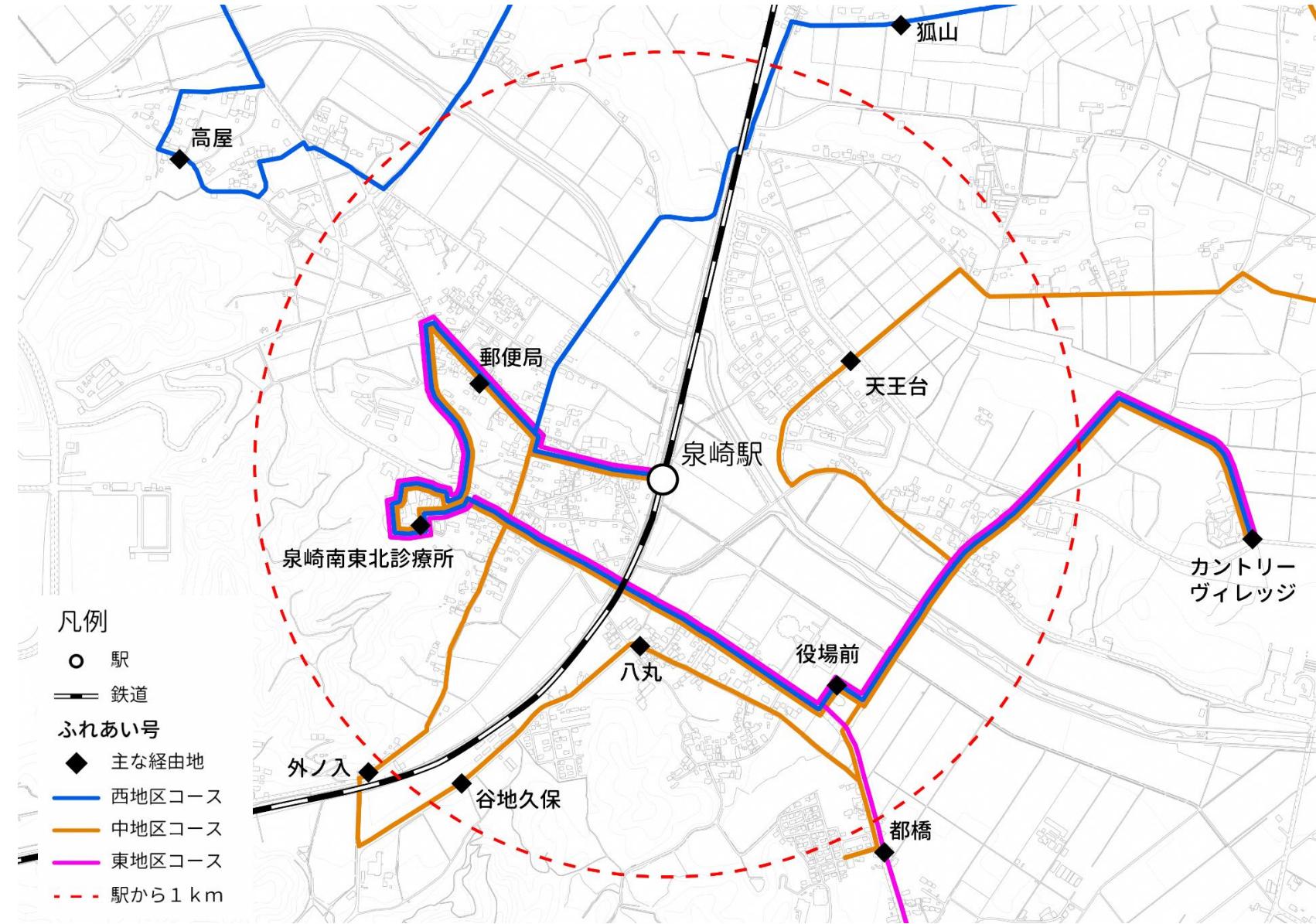


2

泉崎駅周辺の現状と まちづくりの取組



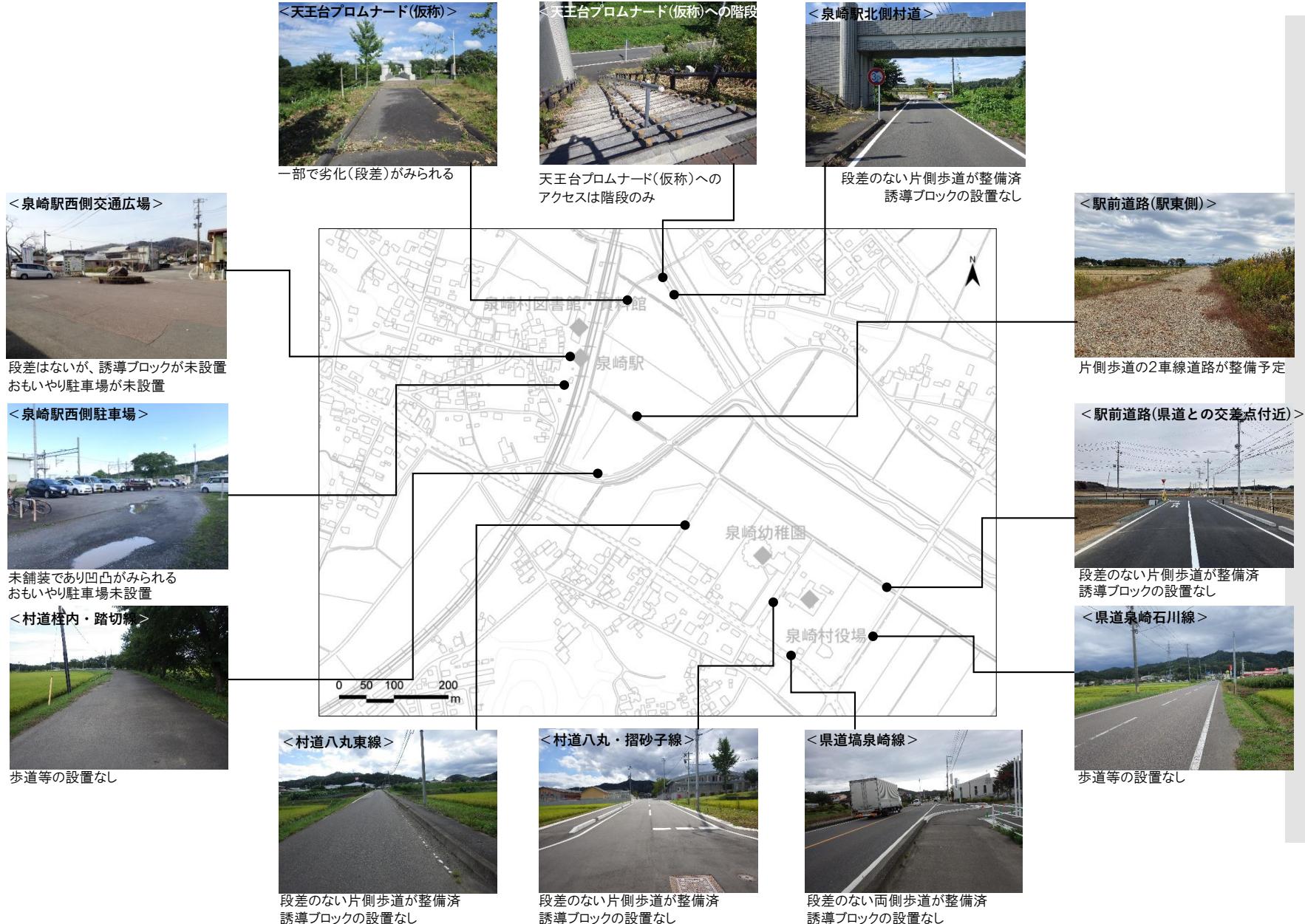
■泉崎駅周辺の公共交通網（ふれあい号主要路線図）



2

泉崎駅周辺の現状と まちづくりの取組

■泉崎駅周辺のバリアフリーに係る状況（経路）



2

泉崎駅周辺の現状と まちづくりの取組

■泉崎駅周辺のバリアフリーに係る状況（施設）



2

泉崎駅周辺の現状と まちづくりの取組

■泉崎駅周辺のまちづくりの経緯

年	まちづくりの内容
平成 8年	JR東日本へ泉崎駅東口整備の要望書提出
平成 12年	自主的財政再建となり、泉崎駅東口整備協議保留
平成 18年	泉崎駅東口整備基本設計（概算工事費算出）
平成 26年	財政再建が完了し、泉崎駅東口開発基金積立開始
平成 28年	JR東日本との協議再開
平成 30年	東西自由通路基本設計（概算工事費再算出）
平成 31年	東西自由通路詳細設計開始
令和 2年	自由通路詳細設計にて基金額に対する概算工事費超過が判明
令和 3年	補助金・交付金の模索及び東口整備構想の根本的な見直しへ 東西自由通路とロータリーだけでなく、駅周辺全体の整備へ



バリアフリー基本構想・泉崎駅周辺整備計画策定へ

3 泉崎駅周辺地区 バリアフリー 基本構想の策定



■ 泉崎駅周辺地区バリアフリー基本構想策定の経緯

年	月 日	経 緯
令和4年	9月15日	第6次泉崎村総合振興計画・村づくり委員会 第1回分科会 【（るべき姿=理想）=（こんな村だったらいいな～）】
令和4年	10月20日	第6次泉崎村総合振興計画・村づくり委員会 第2回分科会 【『こんな村だったら住んでみたい』というアイディア】 【理想とのギャップの原因特定及び解決策】
令和4年	11月24日	第6次泉崎村総合振興計画・村づくり委員会 第3回分科会
令和4年	12月22日	第6次泉崎村総合振興計画・村づくり委員会 第4回分科会
令和5年	1月26日	第6次泉崎村総合振興計画・村づくり委員会 第5回分科会
令和5年	2月24日	第6次泉崎村総合振興計画・村づくり委員会 第6回分科会
令和5年	6月24日	第6次泉崎村総合振興計画・村づくり委員会 先進地視察研修 ①共済会宇都宮病院 ②入間川にこにこテラス ③境町ニコニコパーク ④道の駅グランテラス筑西
令和5年	7月27日	第1回泉崎村バリアフリー基本構想策定協議会 【バリアフリー基本構想の策定について】 【重点整備地区の設定について】
令和5年	10月12日	第2回泉崎村バリアフリー基本構想策定協議会・まち歩き 【重点整備地区の変更について】 【生活関連施設及び生活関連経路の設定について】 【特定事業及びその他事業について】
令和6年	2月 2日	バリアフリーの現状調査 ①泉崎村役場 ②ツルハドラッグ福島泉崎店 ③泉崎駅 ④泉崎図書館・資料館
令和6年	2月27日	第3回泉崎村バリアフリー基本構想策定協議会 【泉崎駅周辺地区バリアフリー基本構想（案）について】

3

泉崎駅周辺地区 バリアフリー 基本構想の策定



■泉崎駅周辺地区バリアフリー基本構想の構成



泉崎駅周辺地区 バリアフリー 基本構想の策定



■泉崎駅周辺地区バリアフリー基本構想の概要①

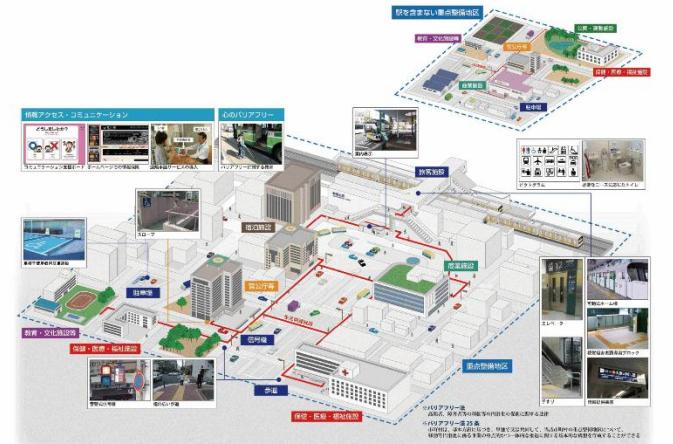
泉崎駅周辺地区バリアフリー基本構想（概要版）

1. はじめに

（1）バリアフリー基本構想とは？

バリアフリー基本構想は、鉄道駅等の旅客施設を中心とした地区や、高齢者、障害者等が日常生活又は社会生活において利用する生活関連施設が集まった地区（「重点整備地区」）において、公共交通機関、建築物、道路、路外駐車場、都市公園、信号機等のバリアフリー化を重点的かつ一体的に推進するために市町村が作成するもので、重点整備地区において「面的・一体的なバリアフリー化」を図ることをねらいとしたものです。

【面的・一体的なバリアフリー化のイメージ】



資料：バリアフリー基本構想作成に関するガイドブック（国土交通省）

（2）策定の目的と目標年次

本計画の上位計画である第6次泉崎村総合振興計画において泉崎駅周辺地区は、「鉄道駅としての機能だけでなく、交通、医療、福祉、商業等の機能を充実させつつ、集約することで住民の憩いの場となる生活中心拠点」として位置づけられているとともに、バリアフリー法に対応した、「区域内の旅客施設を中心とする地区及び高齢者、障害者等が利用する施設が集積する地区」として安全かつ快適に移動し、行動できるまちづくりが求められています。

泉崎駅周辺地区バリアフリー基本構想（以下、「本構想」）においては、上位計画における位置づけを踏まえ、バリアフリー法に基づく基本構想を作成し、泉崎駅周辺に、バリアフリーに関する重点整備地区や特定事業を定めるとともに、既存施設の利活用も含め、生活関連施設やそれらを結ぶ経路の一体的なバリアフリー化を推進することで、安心・安全で快適な環境の整備を目指します。

本構想は策定年度である令和5年を基準年度とし、概ね5年後である令和10年を目標年度とします。ただし、5年毎の見直しにより、継続的な取組を行っていきます。

2. 泉崎駅周辺整備構想

泉崎駅周辺は、主要施設が集中しているほか、今後、東西自由通路や東側交通広場の整備、さらには施設移転等が予定されています。これに伴い、駅東側方面の市街化が促進されることが予想され、駅周辺の生活利便施設へのアクセス増加も想定されることから、これらに対応したバリアフリー化が求められます。泉崎駅周辺地区バリアフリー基本構想の生活関連施設や生活関連経路等の検討にあたっては、整備予定の施設の位置等を明らかにする必要があることから、移動等円滑化に関する基本方針の設定にあたり、泉崎駅周辺の整備構想を整理します。

（1）駅周辺のまちづくりの目標・基本方針

【駅周辺のまちづくりの目標】
みんなが集い・にぎわう
泉崎の生活中心地区の形成

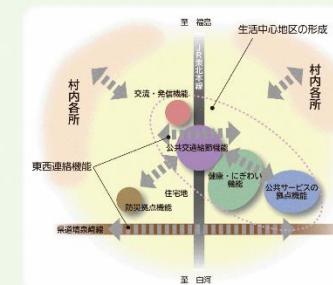
- 基本方針1 駅周辺交通機能の整備・強化
- 基本方針2 生活中心機能の整備、誘導
- 基本方針3 バリアフリー化の推進
- 基本方針4 若者・子育て世代等の居住の誘導
- 基本方針5 安全で快適な環境の整備

（2）駅周辺の機能配置の考え方

本地区は、南北に縦貫するJR東北本線及び東西に横断する幹線道路である県道塙泉崎線を基軸として、各種都市機能を配置していきます。

JR東北本線の泉崎駅を中心に公共交通結節機能を配置するとともに、県道塙泉崎線沿道の既存の公共施設を活かした公共サービスの拠点機能を配置します。また、公共交通結節機能と公共サービスの拠点機能の間にこれらの機能と連携するよう、村民が集い・憩い・楽しみ・健康づくりを行うための機能の中心配置を進めます。生活中心地区は、これらの機能が連携する範囲とし、各機能の立地・誘導とともに、機能連携を図り、一体的な地区の形成を推進します。

【駅周辺の機能配置図】

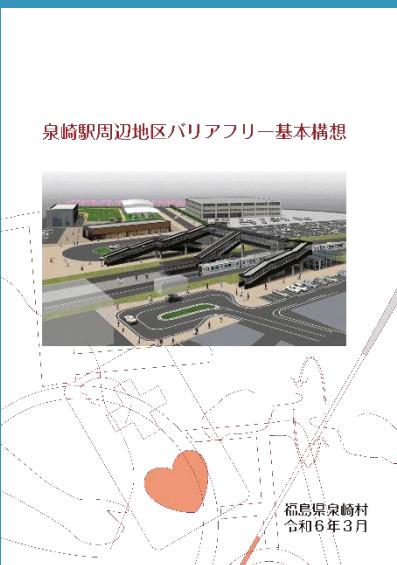


【泉崎駅周辺の整備イメージ】



3

泉崎駅周辺地区 バリアフリー 基本構想の策定



■泉崎駅周辺地区バリアフリー基本構想の概要②

3. 泉崎駅周辺の移動等円滑化に関する 基本方針

基本方針①

泉崎駅周辺の連続的・一体的なバリアフリー化の推進

生活中心地区として位置づけられた泉崎駅周辺においては、高齢者や障害者、ベビーカー利用者等が快適に移動できるよう、個々の生活関連施設や移動経路について村や事業者といった所有者・管理者が連携を図りながらバリアフリー化を推進することで、連続的・一体的なバリアフリー空間を整備していきます。

基本方針②

泉崎駅の安全な移動・施設利用環境の整備

泉崎駅は本村唯一の鉄道駅であり、通勤・通学をはじめ買い物等、村民の公共交通を支える拠点として位置づけられています。このために、利用者等の安全で円滑な移動や施設利用ができる環境の整備を促進します。

基本方針③

鉄道を跨ぐ東西移動の円滑化

高齢者や障害者、ベビーカー利用者等が自動車を使用しなくとも泉崎駅の東西を安全に移動することができ、駅周辺に立地する生活関連施設を円滑に利用できるようにするため、エレベーターを設置した東西自由通路の整備等に取り組んでいきます。

基本方針④

安全なバス利用、施設間移動ができる環境の整備

泉崎駅は、巡回バス「ふれあい号」の全路線が集中する公共交通の結節点です。駅周辺に立地する生活関連施設を、自動車を使わずに利用する場合には、村内各所から巡回バスを利用する場所からその他の生活関連施設に移動する歩行経路が想定されます。このような経路を重点的にバリアフリー化し、誰もがいつでもどこへでも安全に移動できる環境を整備していきます。

基本方針⑤

継続的な村民意識の向上

高齢者や障害者、ベビーカー利用者等が安心して日常生活を過ごすことができるバリアフリー社会の実現に向けて、村民みんなが助け合い、補完する「心のバリアフリー」を促進するため、教育活動や意識醸成、住民マナー向上などのソフト面での取組を進めます。

4. 重点整備地区の特定事業

重点整備地区内のバリアフリー化を具体的に進めるための事業として、以下の特定事業を設定します。

公共交通特定事業

巡回バス「ふれあい号」

・ノンステップ車両の導入

村

道路特定事業

泉崎駅西側交通広場

・舗装改修
・歩行空間の設置
・視覚障害者誘導用ブロック設置

村

東西自由通路

・エレベーターの設置
・通路の有効幅員を2m以上確保
・通路上に昇降口(出入口)を設置する場合は有効幅員を確保
・視覚障害者誘導用ブロック設置 等

村

泉崎駅東側交通広場

・歩道の有効幅員を2m以上確保
・自転車歩行者の有効幅員を3m以上確保
・歩道等の縦断勾配は5%以下とする
・視覚障害者誘導用ブロック設置 等

村

駅東道路

・歩道の有効幅員を2m以上確保
・自転車歩行者道の有効幅員を3m以上確保
・歩道等の舗装は平坦で滑りにくく、水はけのよい仕上げとする
・歩道等の縦断勾配は5%以下とする
・視覚障害者誘導用ブロック設置 等

村

村道程内・如信沢線

・視覚障害者誘導用ブロック設置
・横断歩道の設置

村

村道八丸・摺砂子線

・視覚障害者誘導用ブロック設置

村

□：重点整備地区

天王台プロムナード(仮称)

・舗装化
・視覚障害者誘導用ブロック設置
・手すりの設置

村

都市公園特定事業

駅前公園

・幅120cm以上の出入口を設置
・通路の幅は180cm以上確保
・車いす使用者が通過する際に支障となる段差を設けない
・通路の縦断勾配は5%以下とする 等

村

建築物特定事業

泉崎図書館・資料館

・視覚障害者誘導用ブロック設置
・エントランスのバリアフリー化
・バリアフリートイレの設置
・職員へのバリアフリー教育の実施

村

泉崎村役場

・おもいやり駐車場の増設
・おもいやり駐車場の屋根設置
・視覚障害者誘導用ブロックの延長
・エントランスの音声案内の設置
・カウンターの改修
・ユニバーサルシートの設置
・職員へのバリアフリー教育の実施

村

教育啓発特定事業

・小中学校でのバリアフリー教育

村

泉崎村
大学
運輸局

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

村

3 泉崎駅周辺地区 バリアフリー 基本構想の策定



■バリアフリー基本構想策定協議会の様子



■まち歩きの様子



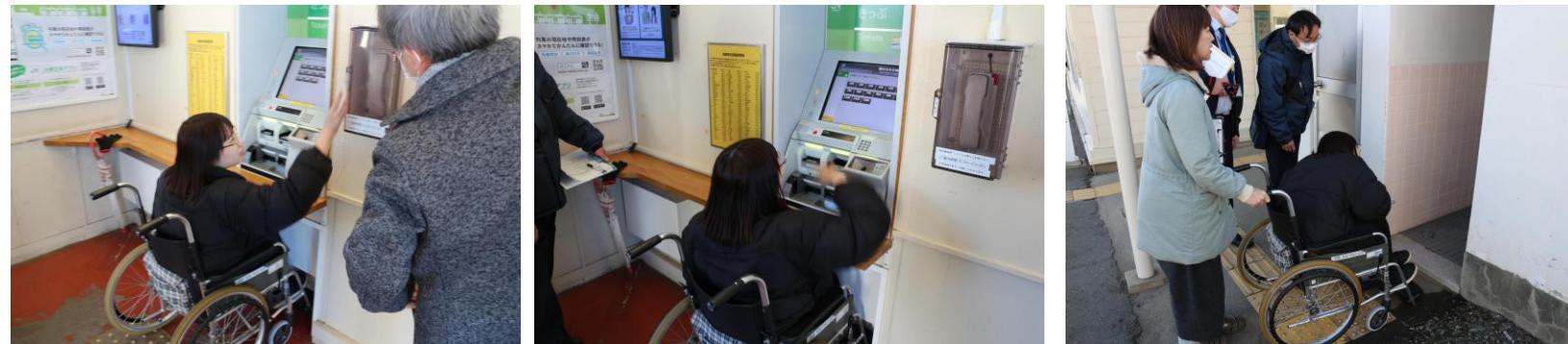
3 泉崎駅周辺地区 バリアフリー 基本構想の策定



■バリアフリーチェックの様子 【商業施設】



【泉崎駅】



【泉崎図書館・資料館】



4

策定にあたって 工夫・苦労したこと



■泉崎駅周辺整備計画と連動したバリアフリー基本構想の策定

- バリアフリー・ユニバーサルデザインスタンダードの意識

→泉崎駅周辺整備計画には東西自由通路だけでなく、交通広場や駅前道路、駅前公園の整備等が含まれるが、今後、その要素として整備する通路やトイレ、駐車スペース等の設備は、基本的にバリアフリーやユニバーサルデザインの考え方に基づいて整備するという意識付け。

- 巡回バス「ふれあい号」の経路を考慮

→泉崎駅周辺整備後の地域交通計画策定や巡回バス「ふれあい号」の運行形態見直し等を含めた将来を見据えて、重点整備地区や生活関連経路を設定。

4

策定にあたって 工夫・苦労したこと



■特定旅客施設に該当しない駅におけるバリアフリー化の推進

- 泉崎駅の特定事業設定の見送り

→現状の制度では、バリアフリー基本構想を策定したとしても、一日平均乗車人数350人程度の無人駅におけるバリアフリー化は事実上困難。

- 車いす使用者等の上りホームへのアクセス問題

→東西自由通路の東端と西端にはエレベーター設置予定だが、上りホーム用のエレベーター設置の見通しが立たないため、車いす使用者等の上りホームへのアクセスが事実上困難。

■泉崎駅周辺の整備予定

- 泉崎駅東西自由通路整備
- 駅東側交通広場整備
- 駅東道路整備
- 駅前公園整備
- 診療所・介護老人保健施設移転整備
- 駅西側交通広場再整備

→各種補助金・交付金を活用しながら、整備を進めると同時に
バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を図る。